Rotary 世界に希望を生み出そう

Weekly Bulletin Vol.68 No.36　2023–2024　RI会長 ゴードンR.マッキナリー　泉大津ロータリークラブ(創立1956.5.4)

週報 第3244回

会　長　上田　秀朗　**副会長**　渡辺　万寿
幹　事　西田　佳郎　**SAA**　西端　政博

例会場　ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL　0725-20-1121
例会日時　毎週金曜日 12：30～13：30

事務局　〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500　FAX.0725-21-9501
メールアドレス　info@izumiotsu-rc.org
ホームページ　http://izumiotsu-rc.org

今週の例会（2024年5月17日）　第3244回

■ プログラム

卓話担当　瀧谷　達　会員

■ 次週のプログラム

5 月19日　：家族例会

■ 今後の予定

・5 月24日：　卓話担当　山本　博章　会員
卓話講師　マジシャン隼人　様
人を欺くテクニック「ミスディレクション」
・5 月31日：卓話担当　中田　広宣　会員

■ 祝　誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

我等の生業

今月の歌

茶つみ

夏も近づく　八十八夜
野にも山にも　若葉が茂る
あれに見えるは　茶つみじゃないか
あかねだすきに　すげの笠

■ 先週の例会

会長の時間　上田 秀朗　会長

皆さん、こんにちは、大抵、私の話、常識のウソをテーマすることが多いのですが、今日もその類です。さて今日はいわゆる「五大奉仕＝クラブ組織論」のウソについてです。実はこの話をすべきか否か、ずっと迷っていましたが、以前お話した「嫌われる勇気」を出して取り上げることにしました。
皆さんのなかには、ロータリーの五大奉仕、すなわち、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕に従って委員会を置き、理事または委員長、および委員を配置するのが定石とお思いの方が多いでしょう。私自身もそう教えられましたし、そう信

じていました。ところがこの「五大奉仕＝クラブ組織論」、実は定款上の根拠が希薄なのです。何故なら定款には別の委員会例が記載されているのです。順を追って説明しますと、2010,2013年の手続要覧においては、クラブの「各種委員会（Club Commitees）」は管理運営、会員増強、公共イメージ（2013年では広報）、奉仕プロジェクト、財団と記載され、推奨項目となっています。さらに、2016年からは「標準ロータリークラブ定款」にも明記され、これは2019, 2022年の手続要覧でも変わっていません。しかも条文の最後に「例外。細則は、第〇条に従わない規定を含めることができる。」という但し書きがないので、必須項目ということになります。必須項目である以上は曲がりなりにも守らなくてはなりません。先程の委員会例はC.L.P（クラブリーダーシッププラン）に基づくものです。そして、定款上の根拠があるのはいわゆる「五大奉仕＝クラブ組織論」ではなく、C.L.Pに基づくクラブ組織論ということになります。

では、何故当クラブにおいてはC.L.Pに基づくクラブ組織論が顧みられることなく、いわゆる「五大奉仕＝クラブ組織論」が今日までまかり通っていたのでしょうか？それがうかがえる資料がここにあります。これは2013-14年度の会長が理事会に諮ったものになります。内容を簡単に言えばC.L.P排斥論です。ただ、これはもう、現行の定款の下では無効と考えていいでしょう。読みたい方にはいつでもお貸しします。話は変わりますが、ここにいらっしゃるほぼ全員が自動車運転免許をお持ちだと思います。そこでお聞きします。「松本走り」という御当地ルールをご存知でしょうか？長野県松本市では交差点内は直進より右折が優先します。城下町であった松本では細い道の交差点が多く、右折車による渋滞を回避するためにこの御当地ルールが生まれたというのです。外から松本に来た人はびっくり仰天ですし、松本の人が外で右折優先をすると事故の原因にもなりかねません。ただ、最近は右折可信号の設置により解消しつつあるようです。「松本走り」同様、いわゆる「五大奉仕＝クラブ組織論」はロータリーのグローバルルールではなく、御当地ルールにすぎません。そして御当地ルールである限り、いずれは是正される運命にあるのです。

それでは、皆さん、こちらのA4版１枚の資料をご覧ください。これは2024-25年度2640地区の委員会組織表です。みごとにC.L.Pを骨格にして五大奉仕を肉付けしています。作成したのがガバナーエレクトか代表幹事予定者かは知る由もありませんが、各クラブの模範となるべき出来栄えです。少し説明をさせていただきます。左には地区戦略計画、研修、会員増強を頭に11委員会の一群があります。これはクラブ管理運営にあたるものです。そして中央には社会奉仕部門、社会奉仕委員会、その下に職業、地域社会、国際、青少年の各奉仕委員会があります。これは奉仕プロジェクトにあたります。さらに右側には財団と米山があります。これは奉仕ではなく、どちらかと言えばドネーションになりますので奉仕プロジェクトとは別になります。「地区はすっかりC.L.Pに席巻されたのか？」と問われれば、「はい、そのとおりです」と答えましょう。しかし本当は当クラブが「五大奉仕＝クラブ組織論」に固執している間にクラブの外はすっかり変わってしまったのが正確なところです。元々あれかこれかという二者択一ではなかったのです。五大奉仕とC.L.Pは相互補完の関係にあります。ですから「赤信号みんなで渡れば怖くない」流の御当地ルール、いわゆる「五大奉仕＝クラブ組織論」はできるだけ速やかに放棄されるべきなのです。ここはいずれは通らなければならない道です。できるだけ早い方が若い世代の負担を減らせますし、将来地区で活躍する人材も育てやすくなるはずです。以上を今日は皆さんに切にお願いしたいのです。

本日の会長の時間はこれでおわりです。

幹事報告

西田 佳郎　幹事

○本日皆様のテーブルの方に、5月26日(日)開催の浜街道まつりのチラシと、ガバナー月信5月号を置かせていただいております。
○皆様のメールボックスの方には、ロータリーの友5月号を入れさせていただいております。
○来週の16日(木)は事務局お休みとなっております。
○本日例会終了後、理事役員会がございますので、関係者の方はよろしくお願い致します。

委員会報告

○本日例会終了後、みやびの間にて委員会を開催致します。メンバーの方よろしくお願いします。
(瀧谷　達　親睦活動委員長)
○社会奉仕委員会の次回の活動といたしましては、港湾美化清掃に参加致します。来月6月2日(日)午前8時から10時の2時間で、小松埠頭・小松緑道の清掃に当たっております。本日、参加者名簿にご記入いただき有難うございます。締め切りは14日(火)まで大丈夫ですので、ご都合のつく方は事務局までご連絡よろしくお願い致します。出来るだけ皆さんご参加いただきますようにどうぞよろしくお願い致します。
○来週例会終了後、社会奉仕委員会を開催したいと思いますので、関係者の方はご出席をよろしくお願い致します。(根尾　玲子　社会奉仕委員長)
○ロータリーの友5月号の読みどころの紹介
(今井　克範　会報・IT委員長)

■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数44名　出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
5/10	37名	7名	—	84.09%
4/12	37名	7名	2名	88.64%

■ メークアップ

榎本(4/26 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
丹農(4/25 和泉南RC)

■ ニコニコ箱

・渡辺エレクト、本日はよろしくお願いします(上田)
・会長エレクト渡辺様、本日 クラブフォーラム宜しくお願い致します(西田)
・渡辺エレクト、本日のクラブフォーラム宜しくお願いします(西端)
・理事会欠席のおわび(高寺)
・欠席のお詫び(松村)
・4月26日 例会欠席の御詫びで御座居ます(釜野)
・欠席のおわび(今井(克))

ニコニコ箱合計	15,000円
累計	597,000円

先週のプログラム　クラブフォーラム

渡辺　万寿　会長エレクト

特集　ロータリー理解推進月間

ロータリーを深め　広める

©Rotary International

Rational Rotarianism by *Paul P. Harris*

ポール・ハリスの
合理的ロータリアニズム

『The National Rotarian』1911年1月号（創刊号）から転載

1911年1月に創刊された『The National Rotarian』（『The Rotarian』の前身）には、ロータリーの創始者ポール・ハリスの6,000語にも及ぶ随筆が掲載され、全ロータリアンに郵送されました。その論文は『ロータリーの友』にも何度か掲載されましたが、誌面の都合で、その全文は掲載されていません。今回は、これまでに載らなかった部分を加え、掲載しています。

ロータリーの創立から6年、ロータリーがアメリカからカナダへと広がっていったころに、創始者によって書かれたこの文章から、皆さまは何を読み取られるでしょうか。

もし、神の摂理によって、私がどこかのコロシアムの演壇に立ち、皆さんと向かい合ったなら、そして、一言言ってよいと告げられたら、一瞬のためらいもなく、“寛容”と叫ぶでありましょう。

ピルグリムファーザーズが脆弱な船で嵐の海に乗り出したのは、それを追い求めたためなのです。世界が夢に描き、感嘆した7月のその日、フィラデルフィアで、地上で最もたえなる鐘の音に目覚めた自由が色鮮やかな羽を広げ飛び立ったのも、元をたどれば、さなぎ時代の寛容からきたものでした。

もし私たちのこのロータリーが、つかの間の存在以上のものたるべく運命づけられているとすれば、それは皆さん方と私が互いの欠点を我慢し合うことの大切さ、すなわち寛容の価値の何たるかを学び知ったからであると言えましょう。

ロータリーは、クラブというものの歴史に全く先例を見ないものです。私たちは、自らの運命に責任をもってきた人々の想像力豊かなイマジネーションによって引き寄せられたという以外に、何の法則ももち合わせていません。羅針盤の発明されるずっと以前、危険な未知の海洋を、星を頼りに航海を成し遂げた船乗りたちのように、ロータリーの先駆者たちは、遠い昔から人間の生活を支配してきた不文律を守りながら、ロータリーというこの船の舵を取って、危険、未知、そして困難の渦巻く自らの職業を、巧みに導いてきました。今後、私たちのこの船が理性的な寛容、そして他人の信念に対する人間的な思いやりという安全コースから逸れることのないように祈ろうではありませんか。

今、私が冒頭に述べたように、神の摂理によって、全世界のロータリアンの視線と思いを一身に受けて、コロシアムの壇上に立たされるとしたら、次のような質問を発してみたいと思います。「皆さんの理解しているロータリーの哲学とはどのようなものでしょうか？」

多くの人の手が挙げられる光景が目に浮かぶようです。そして、個人個人の思いつきのような意見の表明に頼っていては、正確な結論に到達することは望めないだろうと思うのです。

それにもかかわらず、私は、次のような質問をするでしょう。

「ロータリーの哲学とは、仲間の会員に仕事や影響を与え、また、仲間の会員や彼らの影響下にある人々から仕事を得ることである、と、どれほどの人が信じているのでしょうか？」と。おそらくわずかの人を除いては、挙手をする結果となるでしょう。

さらに、もっときわどい点に迫って次のように尋ねてみたいと思います。

「皆さんのうちで、仕事上の目的でクラブに入ることを不名誉もしくは非道徳的だと考える人はどれほどいますか？」と。この質問は急所をついています。多数の不賛成のつぶやき声の中で、2～3人の手が挙がるかもしれません。

そういう場合、少数意見に耳を傾けるのが公平だと

思います。そこで私は、少数者のうちの一人で、特に道徳を重んじる“倫理規男君”の見解を求めるでしょう。私には内容を難なく予測できます。彼はこう言うに違いありません。

利益の追求は危険

仕事上の便宜を得ることをロータリーの特色とすることは危険であると思える。世間の人々は私たちのことをどう思うか。私はこの街で、格式の高い幾つかのクラブや協会の会員になっているが、少なくとも一つのクラブでは、クラブ内でビジネスのことを頼むのは厳しく禁止されている。そのほかのすべてのクラブでも、そうしたことはタブーとなっている。私個人としては、それは無作法の極みと思っている。クラブはクラブそのものの目的のためにあるもので、仕事上の目的であるものではない。日夜仕事に身を削りたいのなら、自分のデスクか店にいればよい。クラブの主な目的の一つは、仕事から離れての、休息とレクリエーションにある。私は既に40年間生きてきたが、今までこの基本的原則に反する定款や細則をもつクラブがあるとは聞いたこともない。

皮肉屋は口をはさむかもしれません。「あなたのおじいさんは、生涯に一度も汽車に乗ることなく終わったということを考えたことがあるのか。その場合、おじいさんがその経験がないために、汽車というものに反対する彼の主張は正しいと言えないという結論に達するのか」。

議論がこのように展開した場合、できたら私はこの論題について、いつも物事を精力的に定義する“理論整一君”の意見を聞いてみたいと思います。私は事前に、彼が指摘するであろう多くの点について皆さんにお話しすることができます。そのうちのいくつかは、多分、次のようなことでしょう。

ビジネスが目的でクラブに入ることが恥ずべきことかどうかは、クラブとその基本方針、そして入会者が入会の際に、何を誓約するかによる。事業上の目的をもって実業クラブに入会することは、社交の目的をもって社交クラブに入会し、あるいは運動の目的をもってアスレチッククラブに入会し、つてを得るために政治クラブに入会するのと同様、何らとがむべきことではない。

もし皆さんが自分の妻や子どものため、まともな事業上の取引によって、クラブの仲間からわずかな金を儲けようとすることを非難に値すると言う人がいたなら、その人に向かって「あなたのキャプレターの中には何か異物が入っていますよ」と言ってやることだ。正当な取引は、双方にとって利益になるものである。もし商売にだましがつきものであるならば、非難する説にも一理ある。しかし、私は自分が扱っている品物を知っており、相手と取引するとき、私自身と同様に、相手にも得をさせていると信じている。倫理則男君の説の問題点は、自らが会員であるクラブの中で、事業上の取引が禁じられているか、あるいはタブーとされている特定クラブの情報を集めている点だ。その情報だけを集めて考えるのをやめている。

もう1秒長くそこにとどまっていれば、理性が彼の結論を変えたに違いない。まっとうなビジネスとは法律家が言う“自然犯”、つまり、もともと悪い行為ではなく、“行政犯”、すなわち、法律や規則で定められて初めて悪いとされる行為ではないかと、気づかれたのではないか。

真のロータリアンは、外部の人から「ビジネスがロータリーの基調の一つ」と言われても決して肩を落とすことはない。そのとき、彼は得意気に言い返す。「ビジネス？もちろん。どこがいけない？　私は仕事に誇りをもっている。あなたはそうじゃないのか？　もしあなたの仕事が職場で話題にするのにふさわしいものであり、家庭で語り合うにはあまりにも恐れ多いわけでなければ、どのような理屈であなたは、その話題をクラブから締め出すというのだろうか」と。

私たちにとってビジネスを恥じることは、ビジネスが私たちに為してくれることを考えると、許されるものではない。それは、人が自分の父母を恥じるのが道理と礼節にかなわないことにほぼ等しい。

ビジネスこそ文明の原動力である。もしビジネスをなくすなら、時の歯車が逆さに回り、紀元のはるか以前に戻ってしまうことだろう。

私は良い主題が1度の短時間の聴聞会で尽きることを好みません。そこでこの問題は強固な“非寛容”に通じることがあることに、にわかに思いを巡らせ、あらた

1910 − 11年度

第1回のロータリー大会が開催される。新設された全米ロータリークラブ連合会の会長に、ポールP.ハリス、初代事務総長にチェスリーR.ペリーが選ばれる。この大会でロータリーの綱領が策定された。アメリカ以外の初のロータリークラブとして、カナダのマニトバ州ウィニペグでクラブが結成され、1911 − 12年度にロータリーに加盟。15クラブ、1,085人。

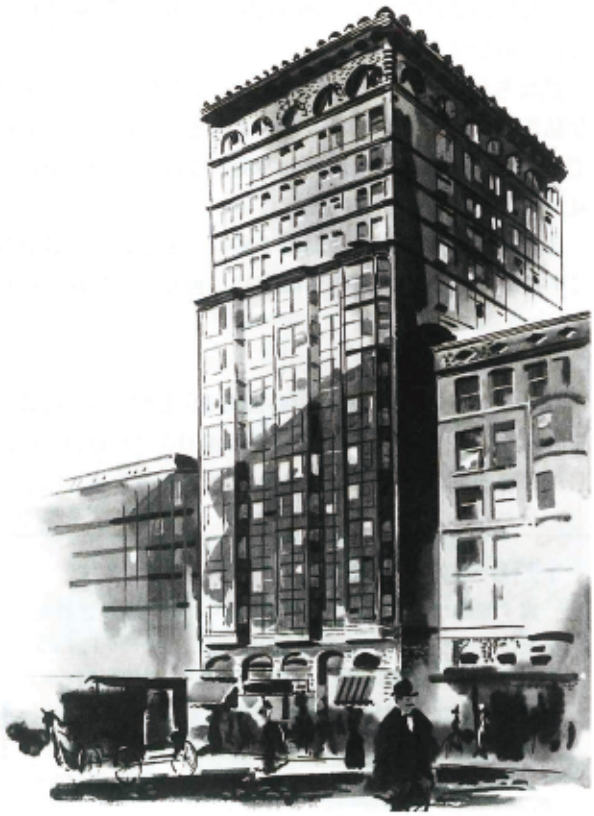
めてお聞きしたいと思います。「ロータリーとは、仲間の会員に仕事上の便宜を与え、影響を広げたり、仲間の会員あるいはその影響下にある人々から仕事をもらうという以上のもの、また、それ以外のものを意味するか」ということです。

商売上好都合

では、次に何事にも現実的に対応する“商売努君”がこの問題について考えを述べたくて、立ち上がっているようです。

私はこの商売努君とは長年の知り合いです。人柄が良く、ほかにも、勘定は期限がくれば必ず払う、期限前でも割引をしてくれれば払うという結構な習慣をもっている人です。彼は百万長者にはなれないでしょう。なぜなら大風呂敷を広げることがないからです。その代わりに、石橋をたたいて渡り、つつましく生活して、決して国の厄介者になるようなことはないといった人物です。その商売努君は次のように言うでしょう。

私はこのクラブがこの街にできて以来の会員である。その間に私は75人の会員に、直接儲け口を与え、そしてまた32人の会員の商売に口を利いた。だから私が助力した人は100人以上になる。そして私がクラブ会員に与え、あるいは口を利いた取引の総額は2,148.16ドル、それから受けた注文額が1,971.65ドルで、83.95ドルを除いて支払っていただいた。だから私は自分の出し分は出したし、帳尻は貸方になっていると思う。もし店へ来ていただければ、どの人にどんな品を売ったか、またどの人からどんな品を買ったか、お目にかけよう。



ロータリーの最初の会合が開かれたシカゴ・ユニティビル

ロータリークラブに入ったのは、勧誘してくれた人が、このクラブは仕事上の目的で集まった、異なる業種の事業家のグループであると言ったからで、私にはそれが非常に合理的なプランであるように思えたからだ。会員になることは200～300人の営業員を得るようなもので、私のためにいつもつながっている電話線のように、商売の話を見つけ出してくれる。私が商品を仕入れる相手も、労働者も、ほとんどすべて何かの組織に属している。私は20年間何らかの形で多くの組織に貢がされてきた。石油を買うのは石油業者の団体から、マッチはマッチ業者の団体、牛肉は牛肉業者の団体、コーヒーはコーヒー業者の団体、砂糖は砂糖業者の団体。一方、私の従業員は労働組合をつくり、私は「もしも……」と不安だ。私は挽き臼の上下の石の間にはさまれた小麦のようだと感じる。

このロータリーの構想の説明を受けたとき、私は飛びついたが、話があまりにもうますぎると思った。まるでクリスマスプレゼントのように思えた。ビジネスが目的で、私はここにいる。私の考えでは、クラブは、ビジネスクラブであってもいいし、また社交クラブでも、何かほかのものでもいいと思う。2～3の異なる性格をもつクラブが今後どうなっていくのか、その目的を一つでも達成できるのかわからない。だが社交的あるいは公共的性格をもったクラブは、ほかにもたくさんあるが、ロータリーのようなクラブはほかにない。私は働き者で毎日12時間は働く。クラブ例会に出るときでも、ちょっと変わった形式ではあるが、これもやはり商売の一つであると思って出席する。そうとでも考えなければ、これに時間を割こうという気にはならない。

皆さんが市民の義務だとか何だとかいろいろなことを話されるのは大変結構なことと思う。しかし、商売とはお金を儲けることである。そして私たちが追い求めているのは、結局そのお金なのだ。この街の進歩的な人の一人で、いつも市のために、あれをやろう、これをやろうと叫んでいる改革者を私は知っているが、私のためにも一つやってほしい。売掛金1ドル75セントを払って

もらっていないんでね。もし私が改革や他人の商売のために自分の時間をすべて使っていたら、多分、誰かに1ドル75セントを借りる側になっただろう。そしてもし私がブリッジとか何とかの暇つぶしに交じっていれば、私はどうなるかわからない。私の理解するところでは、ロータリーは一つのビジネス団体だ。そしてその役割をよく果たしているか、または、それに近いような形で期待に応えている。これはそっとしておいたほうがよい。これが私の評価だ。

このように言って、商売努君は着席しました。

ロータリーのより大きな見解

さて、もう一人の話を聞かなくてはなりません。彼はこれまでの討論で、まだ発言していないグループの意見を代弁します。仮に彼を“博愛均君”と呼ぶことにしましょう。最終発言者であるため、彼はほかの人々の論点をすべて知り、検討する機会をもちました。しかし、彼はいつも発言は最後に行います。なぜなら彼は人の話をよく聞く人物だからです。

博愛均君は次のように話し始めました。

ロータリーにおいて考えるべきことが、事業だけかどうかは、主として各人の見解によるだろう。もし、ロータリーのことも「何ドル何セントの価値があるか」と考える癖がある人がいれば、その人にとってロータリーは、単純なビジネスクラブ以外の何ものでもない。あえて全くビジネス手段としての側面だけから見たとしても、それは良いもので、価値のある資産である。

私の有能なる友人、商売努君は、ロータリーを純粋に商売上の観点から見ているが、彼なりにクラブのためになっているということは否定できない。誰でも生活をしていかなければならないから、その意味で彼の手助けは、大いに歓迎されるべきことだと思う。

この議論における真の主題は、「商売努君の方法が唯一の方法であるのか」「ロータリーとは単に仕事上の利益を融通し合うだけのものではないと信じる人々が存在する余地はないのであろうか」そしてまた「ロータリーには、現代のアメリカ国民として、祖先の残した巨大な遺産の継承者として、各自の受けた恩恵に報いるべく、公共のため、次代のために何事かをなさん、と考える人々が存在する余地はないのであろうか」ということだ。

私はロータリーというものを、社会に恩返しするための機関であると考えてきた。自分の地域社会のためになることを行い、個人ならびに企業の経費を出し、そして、何か別のこともすることを可能にする。大部分の営利団体も慈善事業のために、その会員に、ほとんど見返りなしでかなりの金と時間を犠牲にすることを求める。会員たちはそれに耐えかねることも多い。潮が自分の方に流れているときには、パンを水に投げるのに勇気はいらないこと、犠牲を要しない善意は大した手柄でないことを知らないわけではない。しかし、勇気があろうがなかろうが、手柄であろうがなかろうが、ロータリーは必ずしもお金や時間を失うことなしに、世の中に対して何か借りを返す機会を私たちに与えるのである。

The National Rotarian

ISSUED FROM THE SECRETARY'S OFFICE OF THE

National Association of Rotary Clubs of America

Vol. I.　JANUARY, 1911.　No. 1.

RATIONAL ROTARIANISM

By Paul P. Harris

National President.

President, Paul P. Harris

(This page and the three following are slightly reduced facsimiles from Vol. I, No. 1, of what is now "The Rotarian")

皆さんが、ロータリーを通じて仲間のロータリアンのため、あるいは社会のため、何かしておられるときは、その仲間は皆さんのために何かをしてくれていたり、あるいは何かを言ってくれているのではないか。

自分自身のためより、他人のために働いているときのほうが、どんなにうまくいくかということをお考えになったことがあるのか。自己の利益を離れてした仕事の話は、人々が信じるだけに、より広く世間に知れわたるものである。

悪ふざけの類だが、仮にあなたが私のためにすべての時間を費やし、私も逆に同じことをすれば、私たちの稼ぎは倍にも増えるだろう。

今まで私の述べてきたことは、今の問題の本筋から外

最初のロータリアン。左から、シルベスター・シール、ポール・ハリス、ハイラム・ショーレー、ガスターバス・ローア

れているかもしれないが、ロータリーにおいて考えるべきことは仕事だけだろうか。

反対のしようがないほどのうまい話には気をつけろと言われる。この世の中には、うまい話がたくさん転がっている。しかし、成功とか富に王道なしである。ロータリーといえども、無限の富への“開けごま”の呪文と同じようなものであると考えたら失敗する。将来、不意打ちを食わされないよう、今のうちにこのことを見据えておくのがよいだろう。

表面的には、ロータリーの構想は理論的に正しいように見える。正しすぎるくらい正しく見える。自分の事業と競合することなく、しかも皆さんの利益を図ってくれる友人を200～300人ももつことはとても魅力的な話である。それが実際に理論通りに運んだら、私たちはこの世にあるすべての事業を、すぐに囲い込んでしまうことができるだろう。

しかし実際には、そういうことは起こらず、幸運なことに、私たちとしても、そこまでは望んでいない。なぜだろうか。それは人間の本性というものがあるからである。競争のない市場で、品物を売りたいと思うのが人間の常であるが、その半面、競争のある市場から品物を買いたいと思うのもまた人間の常だからである。

人間とは同時に競争を好み、かつ嫌うようにつくられているものだ。人間は一方で愛し、もう一方で嫌う。そして、ある人の中で好きと嫌いが同居している場合、気楽にやるか、もしくは惜しいと思う方をおやりなさいと、私は助言するであろう。貧弱で古ぼけた競争というものを、消してやろうなどとしてはならない。それは長い間、忠実に私たちのために尽くしてきたのである。しかるべき対応をすれば、扱いやすい獣のようなものである。これまでの功績に免ずる意味においてだけでも、保持しておきなさい。競争というものはまたいつ必要になるかわからない。

もし、私たちが競争を完全に排除すれば、遅かれ早かれ、クラブ会員であることが安易な金儲けのチャンスだ、と考える人が入会してくることになるのは確実で、その後も彼と同類の者が入ってくるようなことになるであろう。ロータリーに対する忠誠心とは、競争相手の請求より高い価格の支払いをロータリアンに求めるものではないということを広めなさい。アメリカ人気質の特徴は、自分に強いて何かをさせるような諸条件に反抗することで、自分の尊敬する人のためには理屈抜きで自ら進んで尽くすという傾向がある。皆さんのそしてまた私の事業にとって、最も貴重な資産は、私たちが好きだから、私たちの商品が好きだから、ひいきにしてくれる人である。このような一人の客の方が、無理に私たちから買うよう強制されている街全体の人々より価値があるものだ。

質を表示するマーク

ロータリーのマークは質の保証となるものでなくて

はならない。ロータリークラブの会員身分は、信用、商品、サービスに関してＡ１の格付けに匹敵するものでなくてはならない。私は理論整一君が語ったことはすべてその通りだと信じている。正当な商取引は、どこでやろうが何ら不名誉なものではない。また、今、私たちはビジネスを裁こうとしているわけではない。

それからまた商売努君は、金儲けのためのロータリーの可能性を鮮明に摘出された。その構図は、人間の本性――その属性にはかなりの開きがあって、彼はそれを考慮に入れるのに適していないが――、その限界内では、彼が示した構図は事実である。しかし、彼が言ったと同じこと、それ以上のことが、ロータリーの公益活動での実力についても言えるであろう。

もしロータリーが、完ぺきの域に達することができるとしたら、私たちはこの世にあるすべての事業および専門職務を代表する人々を集めたクラブをつくることになる。ということは、クラブは、それぞれの都市であらゆる事業や専門職務に従事している人々の接点となる。共通の目的に向かって働けば、ロータリーの実力を試す上で興味深いものがある。

ほとんどすべての都市に、商業団体があるというのは事実である。しかし、そのような団体がもっと存在する余地はある。さらにこれらの団体は、“より偉大なニューヨーク”“より偉大なシカゴ”などと叫ぶのに忙しすぎて“より良いニューヨーク”“より良いシカゴ”などと叫ぶ暇がないようである。

ロータリーは、新たなる勢力集団であり、ほかの団体やクラブにない潜在力がある。そのことは各地域でも言えるであろうが、国家的な側面で考えると、比肩するものがない独特の地位を占めている。

ロータリーのように全国的問題に影響を発揮できる立場にある公益目的、あるいは準公益目的の組織は存在しない。ロータリーは、アメリカのあらゆる主要都市に根を下ろしているので、国の立法を正す力は、ほかのどのクラブにも比し絶大である。

私たちの視野が広がるように。私たちには、ロータリーにおいてより広い展望と満々たる愛国心を必要としている。

私たちは、会員の質を常に高く保たねばならない。各会員のロータリーに対する忠誠の度合いは、その会員がどのような器量の人物を、会員候補として推薦するかによって、測ることができる。自分より優れた人を会員に推薦する人は、心からロータリーのためを思っている人と言えよう。怪しげな取引先の友人や、お得意を引き込もうとする人は、私欲を優先させ、恩恵を与えてビジネスで利益を得んとする人であると言えるであろう。そのような行為が、どれほどロータリーに害を及ぼすかは、計り知れないものがある。

私は、親愛なる商売努君に言うであろう。ロータリーは常に最高の結果をもたらす、と私は確信していると。たとえその結果が金銭ではなかったとしてでもある。そして、すべての時間を帳簿付けと口利きで得た金の勘定に費やすのでなければ、である。なぜなら、会員がビジネスで助け合うというアイデアをあまり頻繁に唱えすぎるのは、一部の最も広い心をもち、最も立派な会員の方々にとっては不快と感じられるであろうから。

正当な取引は、決して不名誉なことではないが、しかしクラブでそれを行うのは得策でないときもある。

人生やそのほかのことに少しの変化を求めるのは、人間の本性であり、ビジネスであれ何であれ、もしその人が自分の地域社会の人々から、よく思われていれば、何事も成就しやすいというものだ。クラブについても同じことが言える。それが存在する地域社会の中でよく思われていれば、クラブの成長も一段と強力で永続するものになるであろう。

人間であれ、クラブであれ、地域社会のことを考えるならば、そのために尽くすことである。アメリカ人は、クラブが公益活動をするよう強く求めるように教育されている。まだ、皆さんが、この種の活動を何もしていないのであれば、今こそが始めるべきときである。私たちのクラブが、先月、仲間の良いアイデアを取り入れ、どのようにしてクリスマスの玩具を街中の玩具をもっていない子どもたちに配ったかをご存じだといいのだが。このような機会は無数にあり、文明が進むにつれて、この種の活動をする機会は増えていく。一度始めてみると、それがどんなに易しいものかがわかり、驚かれることであろう。初めから積極的に奉仕できないというのであれば、消極的にでも奉仕してみなさい。地元の関心事項についての講演があったなら、それに出席して話を聞くこともできる。それは皆さん自身の教育になるとともに、クラブにとっても良い広告になるはずだ。皆さんの街の市民は、皆さんが少なくとも公共的問題に関心をもっているということを知るわけであるから。

事業の合間には、しばしば休憩をとらなければならない。たまの娯楽はいくらか役に立つが、私はそのようなゲームの後押しをする必要がない。どのみち皆さんはそれを得るであろう。数年前なら娯楽はすべての要求を満たしていたであろう。しかし私たちは、レクリエーショ

ンと遊びが、必ずしも同義語でないという点を理解している。今の時代、今の世代の一般的な大人は、自らに関係がない物事を考察することをレクリエーションとする方向に変わってきている。

ビジネスにおける黄金律

もしロータリーに、何か賛同し難いと責められるところがあるとすれば、その利己主義についてであろう。この点で、私たちの排他的性質は批判を浴びるのかもしれない。そのようなときは、次のように批判者に話してあげなさい。利己主義の対義語は利他主義であり、ロータリーは会員に、人から助けられるのと同様に、人を助ける機会を与えるものであると。

多くの会員は、助力を受けたい思いに動かされて入会しているが、つき合いが深まるにつれて人助けをすることに、主な喜びを見いだすようになってくる。

友人に仕事をもっていったり、口利きをしてあげることがどんなに満足すべきことか。大部分の人がお互いに知り合うことが少ない大都市では、特にそう言えるであろう。見知らぬ顔々が渦を巻き、潮が満ち引きするように行き来する中、それを離れて友人の店という港に入るのは、何という喜びだろう。

私は今までに、ロータリーの誰かをひいきする義務を感じたことはないが、それでもロータリーの会員の店をひいきにしている。私は見知らぬ人に恐怖を感じている。ロータリアンをひいきにする癖は、時がたつにつれて、ますます強くなっていく。毎月のように、私はロータリアンの誰かと新しい取引関係をもつようになっている。ひいきする友人をつくる機会を与えてくれるという点だけでも、ロータリーの会員であることは価値のあるものだと考えている。

ロータリークラブの最初の奉仕プロジェクトとして、シカゴのダウンタウンに設置された公衆便所

それからまた、自分のクラブの仲間と同じように、ほかのクラブの人のためにもしてやりたいというのが私のささやかな望みだ。そして会員個人のために、ひととおり尽くしてから、クラブのため、そしてまた自分が住んでいるこの街のために何か特別なことをしたいと思っている。

知人は仕事をもってくる、と言われるが、それは確かである。ロータリーの構成それ自体が商売上の取引を避け難いものにしている。事業資産としての会員資格は、日々とはいえないが、年々その値打ちを増していく。良いことはゆっくりやって来るものである。取引関係というのは、一度結ばれれば長続きする。お互いに競合関係のない人々と、交際する機会を与えられる。ロータリーはその綱領に、職業について規定した一項目をもつ唯一の筋道の通ったクラブである。

私は建築家だが、建築家のクラブに出席した場合、どのような仕事を見つけることができるであろうか。そこに出てくる人々は、すべて私の熾烈(しれつ)な競争相手ばかりだ。私たちの商業クラブで、私は仕事を得る機会があるのであろうか。そのクラブには私を除いて、146人の建築家がいるが、ロータリーではどの会員も私の顧客になる見込みがある。ビジネスは、私たちの組織の部分部分をつなぎ合わせるセメントのようなものであるべきだが、それが組織のすべてであってはならないというのが私の信念である。

私たちは、よき友人である“仕事”を演壇の中央に据え、彼をそこに引き留めようとしがちであるが、私はそれに反対する。

その理由の第1として、たまの気分転換は、私たち自身によいと思うからである。いつも私たちが商売のことばかり考えて、金勘定ばかりしていると視野が狭くなり、見識も小さくなってしまう。

第2の理由として、しばらくの間変化を求めた方がビジネスのために、よい結果をもたらすと思うのである。

第3として、時として変化のあった方が、ロータリーのためによく、そしてその結果、私たちが市、州、国そして全世界において尊敬されるようになると思うからである。

このように結論して、博愛均君は着席しました。

皆さんはどちら

さて、この討論の結末をつけるための論評をごくわずかながら述べさせていただくとすれば、こうなります。

1935年、東京で「友愛の木（月桂樹）」を植樹するポール・ハリス

この架空の4人の論者、すなわち倫理則男君、理論整一君、商売努君、博愛均君の熱心なご意見を、僭越（せんえつ）かと存じますが、大変楽しく聞かせていただきました。私が思うに、すべてのロータリークラブの会員のほとんどは、次の3つの層のいずれかに当てはまるのではないかと考えるのです。すなわち、

(1) ロータリーに商売を持ち込んではならないと主張する倫理則男君と同じ考えの人。

(2) 商売こそロータリーのすべてであると信ずる商売努君と同意見の人。

(3) ロータリーとは、商売と公益活動および親睦を、合理的に混ぜ合わせたものであるとする博愛均君と同じ考えの人。

多分、真のロータリアン哲学として広く受け入れられ、ロータリアンにも、また、ロータリアンでない人々にも同じように理解され、尊敬される見解は、これら3つのうちの、どれかに近いところにあるはずです。

ロータリーは密室で会合をもってはなりません。もしロータリアニズムが、すべてのアメリカ人を陪審員とする審理に耐えられないところがあるとすれば、それはロータリーに合理性を欠く点があるからであり、改められなければなりません。人間の限りある頭では、完全なる英知というものはありえません。進歩することは生きることであり、進歩が止まればまもなく物陰で何かを始める必要が生じ、死が訪れるのであります。

どのような主義といえども批判される運命をもっています。合理的な批判から何かを得ることは英知であると言えましょう。人々が、私たちについてどう考えるかというよりは、批判は私たちに自分自身のことを考えさせてくれるからです。

もし万一、ロータリーが世間の審判を受けるようなことになった場合には、意味のないことを大声で叫ぶのではなく、相手が納得する筋道の立った説明をしようではありませんか。人を裁きたがるのが、人間の性なのです。かつて、マルティン・ルターはウォルムス帝国議会で裁かれましたが、批判者が逆に批判者にされる例になったのです。もし、私たちがロータリーを可能な限り高い水準に置いて、そこにとどめておくならば、たとえ私たちが裁きの庭に出たときにも、証人を得るのに苦労するようなことはないでしょう。

皆さんのそして私の双肩には重大な責任がかかっています。初めに書いた“寛容”の一語にしばし耳を澄ませてみようではありませんか。

まず真剣に考え、それを表現してみようではありませんか。ロータリーは巨大にして強力な組織です。もし野放しにされるなら、それは時の回廊を転げ落ち全人類の脅威とさえなるかもしれません。しかし、適正に導かれたなら、それは私たちが恥じるには及ばぬ、人間味のある組織となるでしょう。

ロータリーのもつ偉大な力を自覚するとき、人はある種の大きな誘惑にかられます。しかし、それを克服するとき、最高の永続する満足感が訪れるでしょう。

さて合衆国とカナダのロータリアンの皆さん、皆さんはこの討論で展開されたどの見解を取りますか。それはなぜですか。皆さんの声をお聞きしたいと思います。

1911年1月1日　シカゴにてポール・ハリス

Annotation

ピルグリムファーザーズ　Pilgrim Fathers

1620年、信仰の自由を求めてメイフラワー号でイギリスから北アメリカに渡ったピューリタン、その他の人たち。

フィラデルフィアの鐘の音

1776年7月4日、イギリスによって統治されていた、北アメリカの13の植民地が、大陸会議でアメリカの独立を採択しました。同年7月6日、アメリカの独立が初めて市民に知らされたとき、鐘が打ち鳴らされました。この鐘は後に「自由の鐘 Liberty Bell」と呼ばれるようになりました。